

倉田 悟 ホソバノコギリシダについて

Satoru KURATA: On *Diplazium Mettenianum* form. *Fauriei* (CHRIST) KURATA.

ホソバノコギリシダ (児玉親輔 in 松村: 植物名彙第九版後編, 1916年) は田川図鑑の説明にある通り, ミヤマノコギリシダの小型品で, 中・上部の羽片は幅約 1 cm. 鋸歯縁〜羽状浅裂するのみで, ソーラスは羽片の中肋の左右に通常 1 列宛配列している。しかし, 下部の羽片では屢々更に幅広くなり羽状中裂し, ソーラスは各裂片に 2〜4 対生ずる場合がある。また, 更に大型品でも羽片が鋸歯縁〜羽状浅裂するのみでソーラスの配列がホソバノコギリシダに一致する個体がある。実際に, 野外においてミヤマノコギリシダとホソバノコギリシダの何れであるか判断に迷うことが稀ではなく, 従つて品種としての区別が適当である。私の検へ得たホソバノコギリシダの標本産地をここに掲げる。T は東京大学理学部植物学教室の, N は東京国立博物館の所蔵標本である。伊豆河津町沼ノ川 (佐竹健三, 1961年), 伊豆御蔵島 (高橋松尾, 1932年 T), 伊勢外宮神域 (本田正次, 1927年 T), 摂津山本 (富樫誠, 1952年 N), 大和吉野郡下北山村池原 (倉田悟, 1960年), 紀州北牟婁郡海山町木津 (同, 1958年), 紀州尾鷲市小原野 (倉田, 1958年; 渡辺定路, 1959年), 同賀田弓山 (倉田, 1960年), 紀州東牟婁郡高田村白見 (同), 紀州西牟婁郡岩田村救馬谷 (園一郎, 1907年 N), 阿波那賀郡宮浜村臼ヶ谷 (倉田, 1960年) 土佐安芸郡野根 (田川・岩槻, 1955年 N), 土佐窪川管内折合川山 (蜂屋晃正, 1948年), 伊予大洲市八幡山 (越智一男, 1960年), 伊予宇和島市滑床 (杉野辰雄, 1960年), 肥前黒髪山 (馬場胤義, 1959年), 肥前西彼杵郡雪ノ浦村藤原 (松林文作, 1961年), 肥後入吉市 (前原勘次郎, 1957年), 肥後天草下島福連木 (倉田, 1960年), 薩摩大口市布計 (山中鉄次, 1959年), 同上場波渡国有林 (城戸正幸, 1961年), 同崎山南平 (倉田, 1961年), 大隅高隈山猿ヶ城 (山中, 1961年), 大隅種子ヶ島西之表市大城川 (春田正直, 1961年), 大隅屋久島小杉谷 (浜谷稔夫, 1956年), 同小田汲 (田川・岩槻, 1959年), 同栗生 (布藤昌一, 1957年; 川畑政親, 1959年), 沖縄島ヨナハ岳 (天野鉄夫, 1953年), 台湾台北県ウライ・ラガ間 (K. MIYAKE, 1899年 T)。中国地方の標本は見えていない。